第3回日本気象学会岡田賞受賞者

中気象学の研究

藤田哲也（シカゴ大学）

藤田哲也君は終戦直後福岡管区気象台の援助により，中気象学の解析的研究を開始したが，当時このような研究を進めるにはきわめて困難な条件下にあったにもかかわらず，多大の労力をおしまず，雷雨およびデラ台風についての詳細な研究を行い，みごとな成果をおさめた．同君は渡米後も豊富な資料を用い引きつづき数多くのすぐれた業績を発表しており，さらにアメリカ気象局からTepper等と共著でこの方面の唯一ともいうべき総合報告を発表するなど，中気象学の分野を開拓し，さらにその研究方法を確立した功績はきわめて大きいものがある．

同君はアメリカその他に日本の研究を広く紹介し，さらに研究の指導や便宜をはかるなど，日本および世界の気象学の発展に寄与するところがきわめて大きい．

よって本学会は同君に岡田賞を贈ってその顕著な業績をたたえる次第である．

学　界　消　息

1. 鈴木氏に藍綬褒章

株式会社東京鈴木製作所の鈴木金一郎氏は，去る11月3日（伝達式は11月12日）気象測器の製作，改良，研究に尽力されたことを認められて，気象測器工業界では初めての藍綬褒章を受けられた．

氏は明治34年以来先代金一郎氏の事業を引継いで，気象測器の製作，改良，考案，研究に身を俸げ，とくに日本製の水銀気圧計を完成し，現在鈴木の水銀気圧計は国際的に標準器として認められている．

2. 琉球気象台に技術援助

琉球政府の要望によって，気象庁は琉球気象台に対して，技術援助を行なうことになった．技術援助の内容は，本土から技術指導者を派遣すること，および琉球から技術研修生をそれぞれの機関に受入れて研修を行なうことからなっている．

3. 北鮮から理事長あてに書翰

朝鮮民主主義科学者協会の委員長，白南雲氏から日本気象学会理事長あてに書翰があり，「大韓民国民議院および南朝鮮の人民におくる，朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議の手紙」および「世界各国の国会におくる朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議の手紙」が同封されて来た．同パンフレットの内容は，外国軍隊の南朝鮮からの撤退が平和のために必要だ，と訴えるものである．

理　事　会　便　り

第19回常任理事会議事録

日時　昭和34年11月14日（土）9.30～13.00

場所　神田学士会館

出席者　今井．神山．畠山．根本．正野．磯野．有住　岸保吉武各理事（順序不同）

決議事項は次のとおり，

1. 数値予報国際シンポジウムの寄付金の免税については大蔵省に連絡することになった．
2. 来年度春季大会および総会の期日については．5月20日から25日までの間として，あとは関西支部に一任する．
3. 学会賞選考委員は．小平吉男．孫野長治．有住直介の3氏に新しい委員となっていただき，磯野兼治．吉武素二は留任と決定．
4. 日本気象学会の案内はだいたい原案どおり承認．
5. 学術会議の選挙の期日が切迫したことについて各理事は周知方につとめる．
6. Symposiumの仮名書きはシンポジウムに統一する．
7. 地学教育廃止意見交換会については，神山．根本両理事に一任する．
8. 地球物理学関係の研究費等分科審議会委員候補者として，気象関係から正野重方理事を推薦する．
9. 原水爆禁止アピールの署名運動を学会として積極的にすすめ．神山理事が担当する．